

令和7年度「全国学力・学習状況調査」の結果 —分析から見てきた成果・課題と今後の取組について—

区 名 西 区

学 校 名 日吉小学校

学校長名 城 崎 雅 一

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和7年4月17日（木）に、6年生を対象として、「教科（国語・算数・理科）に関する調査」と「児童質問調査」を実施いたしました。

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査内容

(1) 教科に関する調査

- ・国語
- ・算数
- ・理科

(2) 質問調査

- ・児童に対する調査
- ・学校に対する調査

3 調査の対象

- ・国・公・私立学校の小学校第6学年の原則として全児童
- ・日吉小学校では、第6学年 184名

令和7年度「全国学力・学習状況調査」結果の概要

国語の平均正答率、算数の平均正答率は大阪市及び全国平均を上回る結果となった。また、国語、算数、理科の無回答率も全国に比べ、低かった。理科は平均正答率は全国より低い、大阪市より高かった。このことから、基礎的な学力が定着している児童が多く、また、最後まで問題を解こうとする意欲が高いことがうかがえる。

質問調査では「学校に行くのが楽しいですか」「自分にはよいところがありますか」「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気づいたりすることができていますか」という項目では肯定的な回答をした割合が全国平均を大きく上回る結果となった。

分析から見えてきた成果・課題

教科に関する調査より

〔国語〕平均正答率は全国平均、大阪市平均を上回る結果となった。無回答率も低かった。「書くこと」は全国より低かったが、「読むこと」は全国平均を大きく上回った。
〔算数〕すべての領域で全国平均を上回っていた。分数の加法について通分を説明する問題では無回答率が12ポイントと高かった。しかし正答率は全国より高かったので、文章で説明する問題が得意な子と苦手な子が二極化していることがわかった。
〔理科〕平均正答率は大阪市の平均を上回り、全国平均を下回った。無回答率は全国、大阪市よりも低かった。

質問調査より

「学校に行くのが楽しいですか」「先生はあなたがよいところを認めてくれていると思いますか」「じぶんによいところがありますか」の項目で5ポイント以上上回っていた。学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気づいたりすることができていますか」という項目も、全国平均より4.8ポイント高かった。しかし、「将来の夢や目標は持っていますか」の項目が全国より2ポイント近く低かった

今後の取組(アクションプラン)

昨年度より研究教科を国語科、研究主題を「自らの考えを大切に、豊かな心を育てる～読みを深めることを通して豊かな言葉で表現できる子の育成」とした。その成果もあり、「読むこと」は伸びてきた。今後も研究の中で自分の考えを書く場面を増やすことを継続し、自分の考えを書く力を育てていく。文字を書くことが苦手な児童もICTを活用し、文字を入力することで自分の考えを書く場面を増やしていくことが必要である。また算数でも自分の考えを表現する場を増やし、文字で説明できる力を育てていく。

安全で安心できる学校を目指し、児童との信頼を密にし、互いに支え合い、不安を取り除いていくように努める。本校で大切にしている児童会活動や異学年集団での活動を通して、良い人間関係を築き、夢を持ち、自己肯定感や自己有用感を高めることにつなげていく。
